

# 三洋貿易株式会社

## 2018年9月期第2四半期 決算説明資料

---

2018年5月29日





## 第一部

2018年9月期第2四半期 連結決算実績

## 第二部

長期ビジョン “VISION 2020 ” の進展状況

## 第三部

2018年9月期 連結業績予想

## APPENDIX1

中期経営計画（2018/9～2019/9）

## APPENDIX2

会社説明資料

# 第一部

## 2018年9月期第2四半期 連結決算実績

---





第2四半期として、5期連続過去最高益更新

利益の伸びが先行投資負担を上回り、順調な進捗

機械資材セグメントは、自動車関連の好調に加え、  
バイオマス大型案件実現で大幅伸長

化成品セグメントも好調を維持

# 2018年9月期第2四半期 連結決算実績



- 化成品及び機械資材セグメントがけん引して2Q過去最高益
- 人的投資等による経費増を増収効果でカバー
- 増収増益ながらも、好採算スポット案件含みの前期利益率には及ばず、利益率は低下

(単位：百万円)

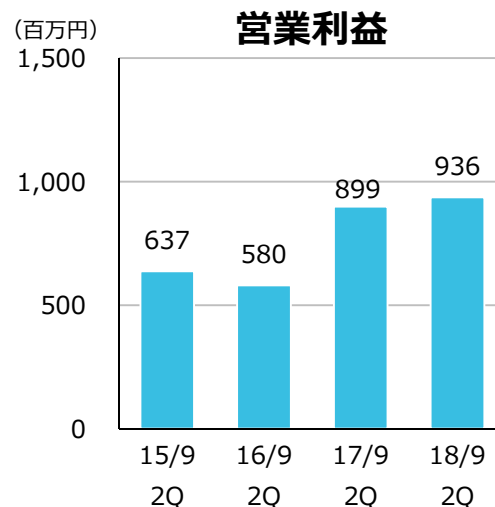
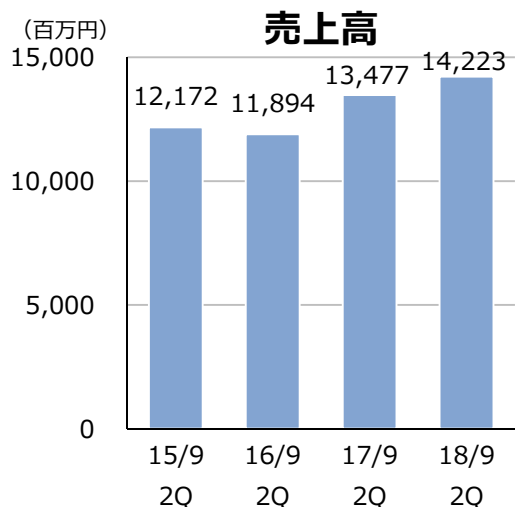
	2017年9月期 2Q	2018年9月期 2Q		2018年9月期 計画比
	金額	金額	前期比 増減率	構成比
売上高	33,804	39,718	17.5%	100.0%
売上総利益	6,207	6,952	12.0%	17.5%
<売上総利益率>	18.4%	17.5%	-	-
販売費及び 一般管理費	3,380	3,952	16.9%	10.0%
営業利益	2,826	2,999	6.1%	7.6%
経常利益	2,977	3,061	2.8%	7.7%
<経常利益率>	8.8%	7.7%	-	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,895	1,984	4.7%	5.0%
EPS (円)	132.47	138.66	-	-
配当 (円)	28.0	30.0	-	-

# 2018年9月期第2四半期 セグメント別 売上・利益の変動要因①



## 化成品

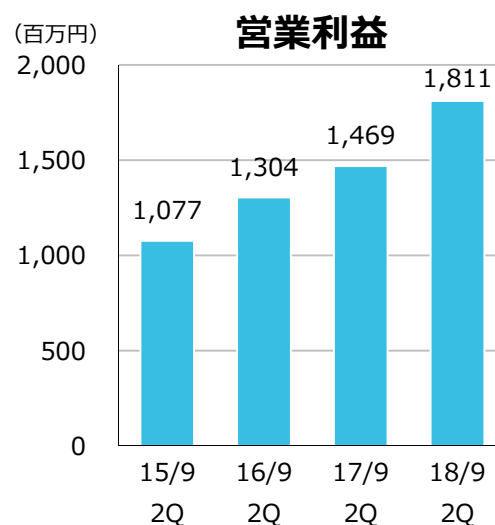
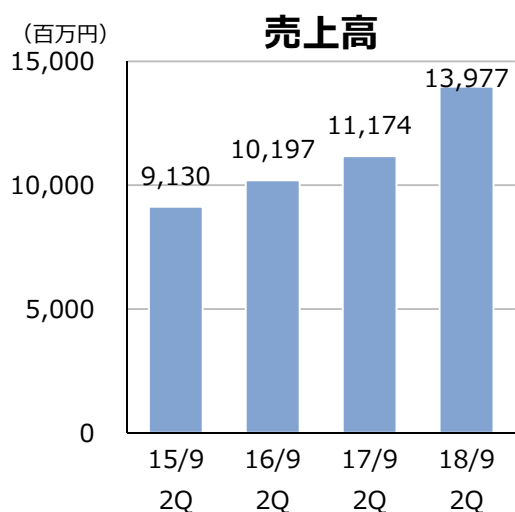
(単位：百万円)



	金額	前期比増減率
売上高	14,223	5.5%
営業利益	936	4.1%

- ゴム関連商品：主力の自動車・家電・情報機器関連向け合成ゴムや副資材等は引き続き堅調に推移。一部の輸出品が低迷
- 化学品関連商品：主力の塗料・インク関連やフィルム及び電材輸出が好調、畜産関連や医薬関連も堅調に推移。難燃剤や染料、接着剤及び関連機器の販売は低調。(株)ソートは売上・利益とも好調

## 機械資材



	金額	前期比増減率
売上高	13,977	25.1%
営業利益	1,811	23.2%

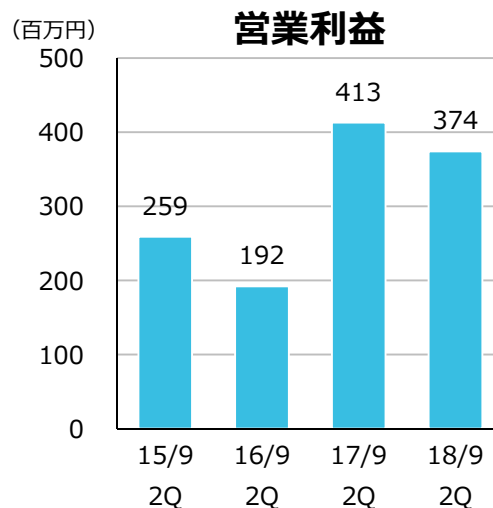
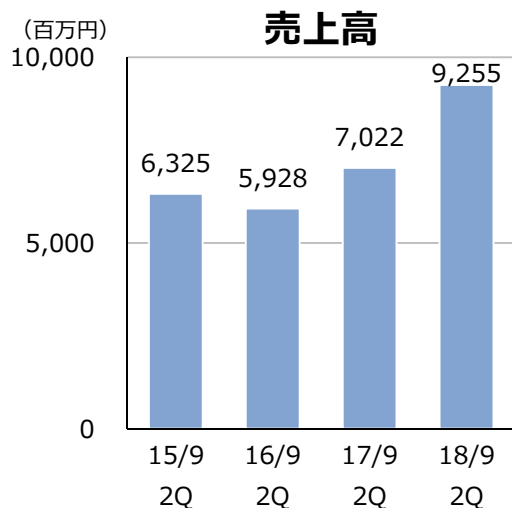
- 産業資材関連：シート用部品等の自動車内装用品の販売で予想以上の好調
- 機械・環境関連：バイオマス大型案件が実現
- 科学機器関連：摩擦摩耗試験機、バイオ関連機器、元素分析装置が好調、耐候性試験機やガス分析機器も堅調に推移

# 2018年9月期第2四半期 セグメント別 売上・利益の変動要因②



## 海外現地法人

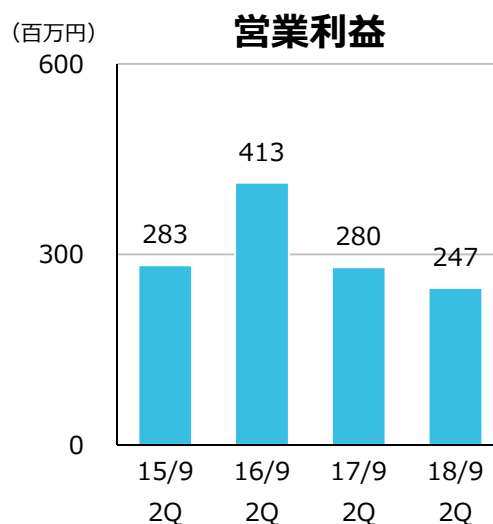
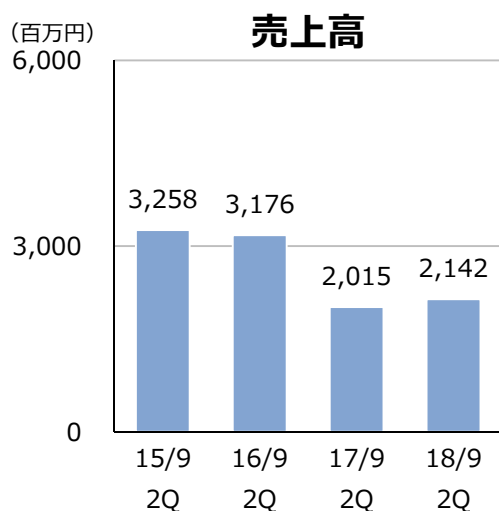
(単位：百万円)



	金額	前期比増減率
売上高	9,255	31.8%
営業利益	374	△9.5%

- SCOA（米国）：モーター等の自動車内装部品や吸水性ポリマー等の化学品が好調で売上高は増加したものの、販管費が増加
- 三洋物産貿易（上海）：ゴム関連や自動車部品関連が大きく伸長したものの、一時的な採算低下に加え、販管費も増加
- San-Thap International（タイ）：ゴム関連や自動車部品関連が好調に推移

## 国内子会社



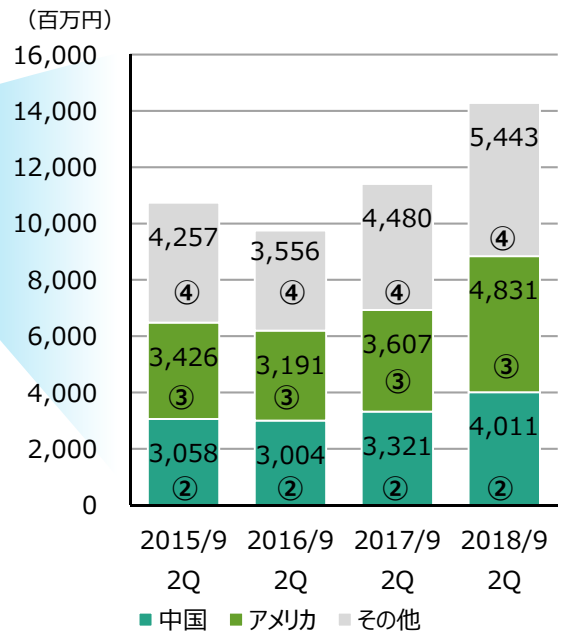
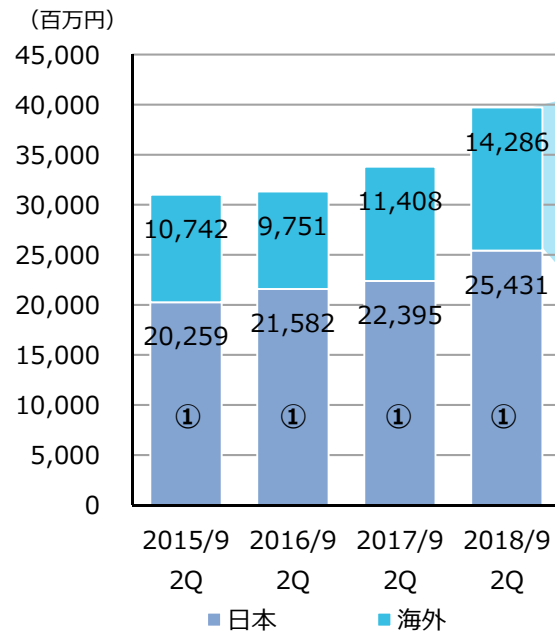
	金額	前期比増減率
売上高	2,142	6.3%
営業利益	247	△12.0%

- ケムインター：米国・台湾向けでの半導体関連商材や穿孔機器の販売が大きく伸長し好調
- コスモス商事：前年同期好調であった地熱分野での機材販売・レンタル事業の反動減あり



# 地域別(仕向地別) 売上推移

(単位：百万円)



2018年9月期 2Q 地域別売上高			
	金額	前期比増減率	構成比
日本 ①	25,431	13.6%	64.0%
中国 ②	4,011	20.8%	10.1%
アメリカ ③	4,831	33.9%	12.2%
その他 ④	5,443	21.5%	13.7%
合計	39,718	17.5%	100.0%

## 変動要因

**日本**

- 木質バイオマス発電関連機材や自動車内装部品が好調に推移

**中国**

- 自動車内装部品が好調に推移

**アメリカ**

- ゴム・化学品関連商材や自動車内装部品が好調に推移

**その他**

- ベトナム、タイ、などアセアン地区が伸長



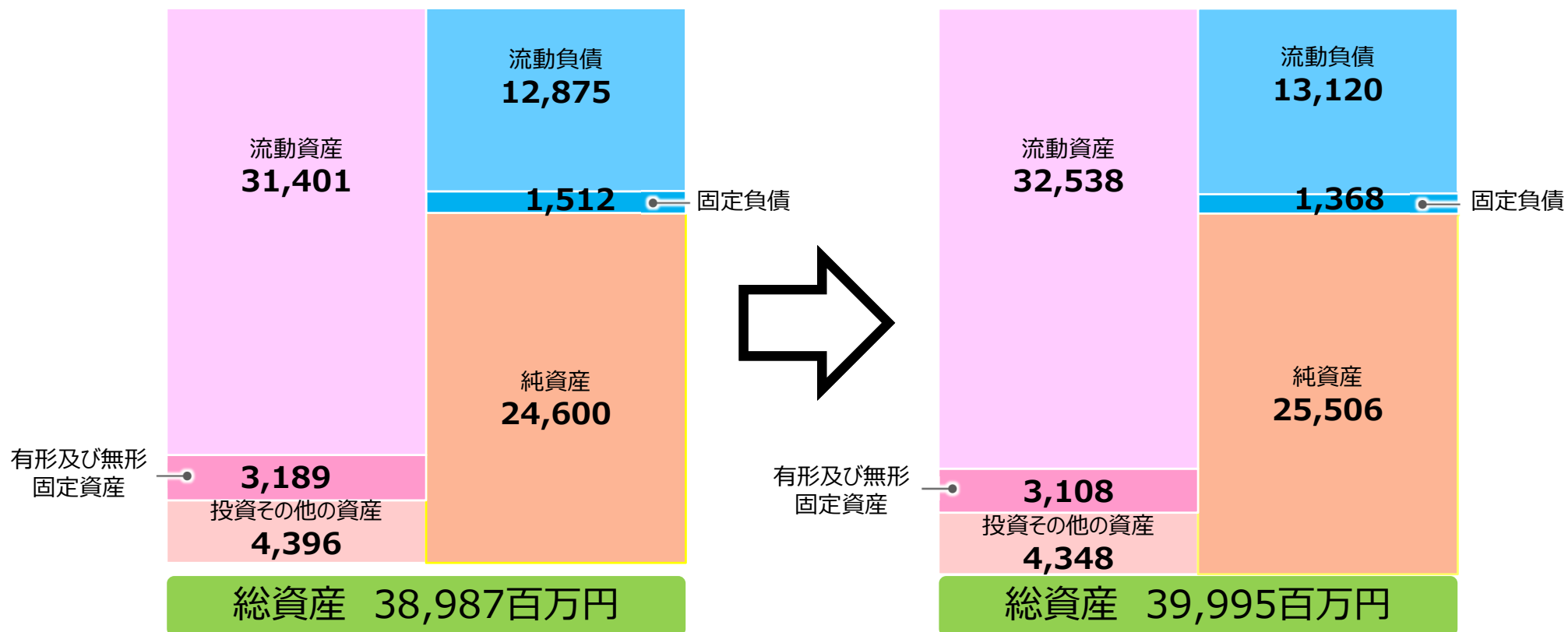
# 2018年9月期第2四半期 連結貸借対照表



2017年9月末

2018年3月末

(単位：百万円)



- 全体のバランスとしては、大きな変化無し
- 資産については、現金及び預金・売上債権等の流動資産の増加により、1,007百万円増加
- 負債・純資産は、四半期純利益(1,984百万円)の計上で、純資産が906百万円増加

# 2018年9月期第2四半期 キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	2018年9月期第2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,478
投資活動によるキャッシュ・フロー	32
財務活動によるキャッシュ・フロー	△887
現金および現金同等物の増減額	577
現金および現金同等物の期首残高	2,601
現金および現金同等物の期末残高	3,179

# Memo

---



## 第二部

# 長期ビジョン “VISION 2020 ” の進展状況

---



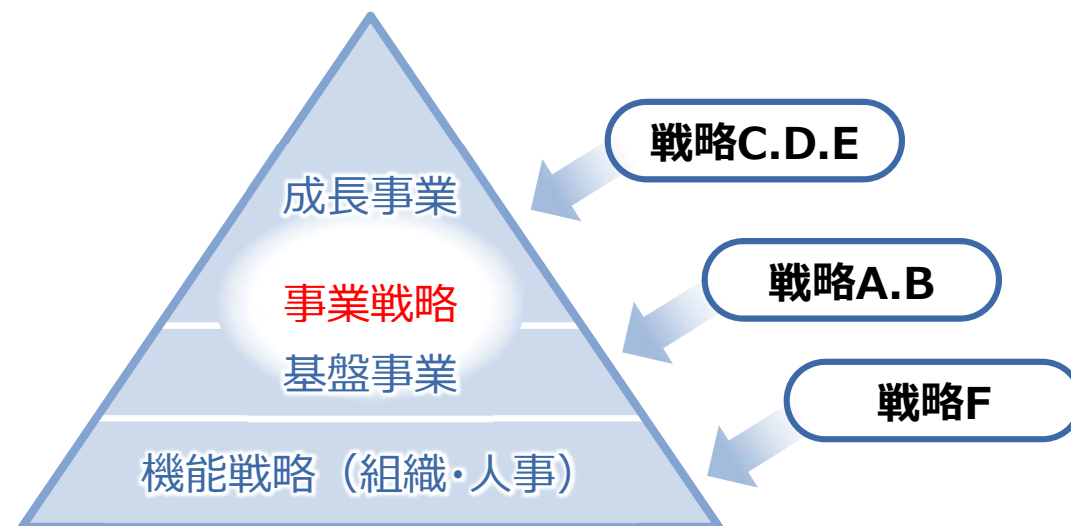
# 長期ビジョン “VISION 2020 “ -抜粋・戦略-



## 6つの戦略

事業戦略	基盤事業	戦略A : 既存コアビジネスの深化
		戦略B : ビジネスポートフォリオの明確化
	成長事業	戦略C : 新規ビジネスのプロジェクト
		戦略D : グローバル展開の加速
		戦略E : 新規投資案件の推進
機能戦略	戦略F : 国内外の組織の強化・最適化	

数値目標は前期迄に達成も、  
定性的な目標は、  
各戦略を通して、引き続き推進





## 戦略 C

### 新規プロジェクトの立上げ

2020年までに具現化可能な新規ビジネスをプロジェクト化し推進する



## 木質バイオマスプロジェクト（継続：機械資材セグメント）



弊社第1号機の  
参考動画

### <串間PJ> 3月検収完了、売上寄与

- 宮崎県串間市にて、独ブルクハルト社(以下、B社)製の熱電併給装置を**10台設置した大型案件**
- 「独B社製熱電併給装置+独ステラ社製ドライヤー+米CPM社製ペレットミル」の**3点セット**(全て当社商材)を一括納入した初の案件
- 保守サービスは、当社子会社の三洋機械工業が隣接のサービス拠点をベースに、フォローアップ
- 保守サービスも収益事業化し、機材販売と併せ一気に通貫でのビジネスモデルを構築



### 概要

事業運営：くしま木質バイオマス株式会社  
所在地：宮崎県串間市大字西方1805-15  
定格出力：1,940 kW  
熱電併給装置：10機導入  
原木量：約20,000t/年  
発電開始月：2018年3月  
設計・施工：シンエナジー(株)  
その他：地元の未利用材を加工し発電に利用  
ペレット工場新設  
→熱を隣接のペレット工場へ供給

稼動を開始した現場状況  
(2018年3月)





## 木質バイオマス市場参入の背景と今後の見込み

### <木質バイオマスの優位点>

- ・未利用間伐材等由来のFIT価格は2,000 k W未満  
40円/kwh + 税 と、FIT価格の中で最も高い (2020年迄確定)
- ・設置の制限が風力や地熱と比較して少ない

### <当社のポジション>

- ・地産地消や売電を目的とした自治体や企業をターゲットとしており、国の政策に合致 (PKS\*不使用で森林破壊問題ない)
- ・木質ペレットを製造、ガス熱電併給の両方の機器に精通

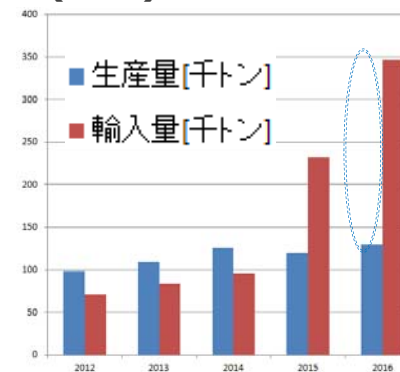
\*Palm Kernel Shellの略で、パームヤシから油を抽出する過程で発生する農作物残渣のこと。パームヤシ作付拡大のために熱帯雨林を切り開いているため、環境破壊問題が懸念されている

### <現在の引合状況>

- ・地方自治体や有力デベロッパーなどからの引き合い多数
- ・現在、大型案件を中心に複数の仮受注があり、実績が実績を呼び始めた

### <再生エネルギー；木質バイオマスの状況・潮流>

#### 木質ペレット生産量 (日本) 2012-2016



出所：林野庁・財務省統計

#### 我が国でのペレット活用状況

- ・石炭混焼需要に向けたペレット輸入が指数関数的に増加する勢い
- ・一方で国内生産量は頭打ち状態が継続
- ・国内生産・自給率の大幅な増加が必要

- ⇒ 国内未利用材(間伐材等)活用促進で増加に寄与
- ⇒ 日本林業の活性化、地産地消と地域振興に貢献

### 我が国のエネルギーミックスの方針

- ・本邦における電源構成方針では、再生可能エネルギー比率を高める方針
- ・その中で、バイオマス発電は太陽光に次ぐ位置付け

⇒ 国家方針に沿った事業分野で、成長性高い

2030年電源構成方針	枯渇性エネルギー		再生可能エネルギー				
	火力	原子力	地熱	バイオマス	太陽光	風力	水力
電源比率	56%	20~22%	1~1.1%	3.7 ~ 4.6%	7%	1.70%	8.8~9.2%
区分比率			22~24%				

出所：経済産業省「長期エネルギー需給見通し」を一部加工



## 戦略 D

### グローバル展開の加速

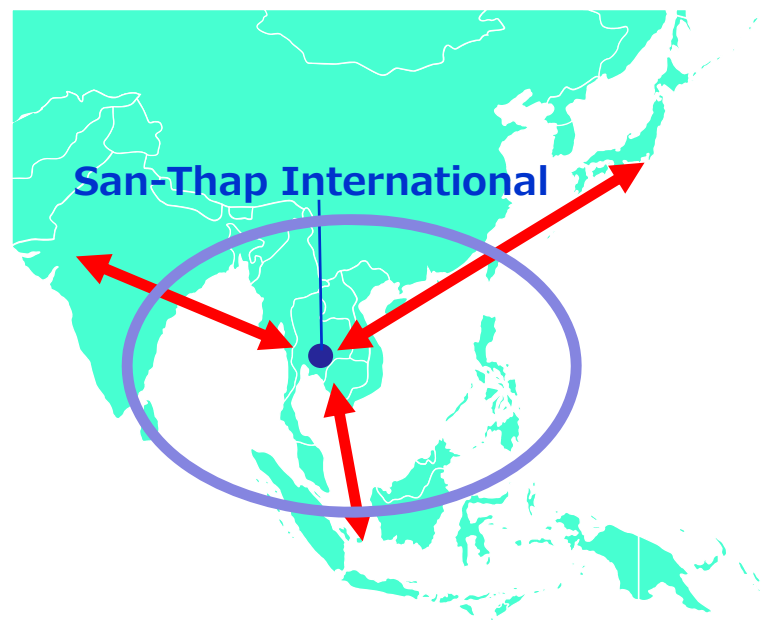
自動車産業で日系企業の進出が続くアセアン+インド、中国、北中米の3拠点を中心として海外展開を促進する

#### San-Thap International 社の完全子会社化

概要	
名称	SAN-THAP INTERNATIONAL CO., LTD.
設立	2003年6月
所在地	タイ王国 バンコク
完了日	2018年2月21日
持分推移	前)当社51%, パートナー(個人)49% ⇒ 後)当社100%
当社グループにおけるポジション	事業部毎に専門の人材を派遣している ASEAN地域での中核拠点

#### 目的

- ◆ 完全子会社化によるASEAN+インド地域の強化・事業展開迅速化
  - ASEAN+インド地域へのサポート拠点・ハブ拠点としての基盤作り
    - ✓ 同地域の各拠点における一義的なサポート力強化
  - 事業展開迅速化とガバナンス機能の向上
    - ✓ 意思決定迅速化(現地での早期判断によるビジネスチャンスの獲得)
    - ✓ 情報の一元化
- ◆ 北米・中国といった他の主要海外子会社とのグローバル連携の促進



Officeビル 外観



# 長期ビジョン“VISION 2020”の進捗 戦略D 事例 2/2



San-Thap International 社の増資の背景 ⇒ 業績は足許好調も、次なる攻めの一手

## 概要

増資日	2018年3月13日
増資後資本金	約 2.3 億タイバーツ

## 目的

### ◆事業資金拡充による一層の事業拡張

- 自動車産業や関連産業を中心に引き続き成長が見込まれるタイ王国及びASEAN 諸国でのゴム・化学品を中心とする産業用素原材料、および自動車用部品等の事業拡大に向けての資本の充実と財務基盤強化を図る

### ◆他拠点とのグローバル連携における主導的役割

- グローバル連携における事業展開や拡張において、主導的役割を担う立ち位置に見合う資本の強化

## 今後の注力商材・分野

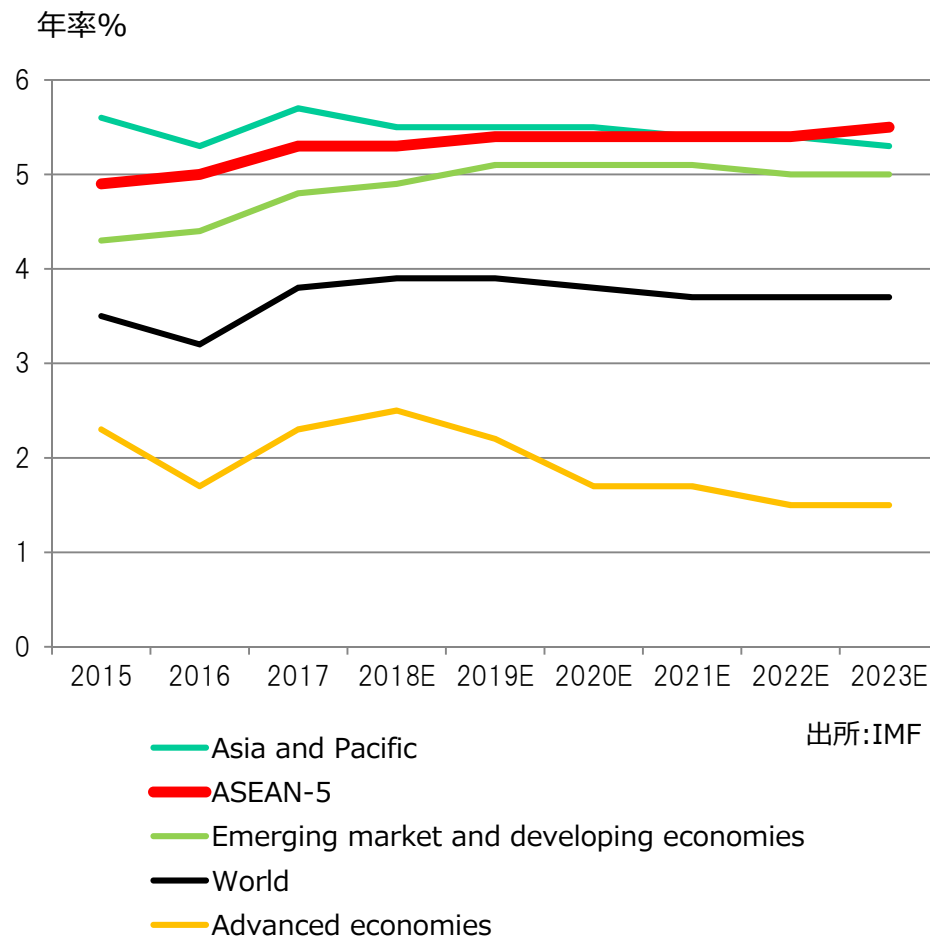
### ◆ゴム・化学品を中心とする産業用素原材料

- ゴム基幹商材+新規添加剤
- ソート社取扱い製品(紫外線吸収剤、光開始剤等)の拡売

### ◆自動車用部品等の産業用資材

- 自動車内装部品(モーター・ランバー・シート等)
- 日本フリーマン社 取扱製品(精密鋳造用副資材、型材等)の拡売

## 実質GDP成長率見通し





## 戦略 E

### 新規投資案件の推進

会社方針に符合する案件に積極的投資を行う

#### アズロ株式会社の子会社化（2017年10月）

##### 概要

設立	1992年9月
所在地	東京都千代田区平河町1丁目1番8号
事業内容	医薬品、化学品等の輸入販売
特徴	医農薬品中間体や電子材料など精密化学品を主力とし、海外(特にインド)のネットワーク構築に強みのある化学品専門商社
売上高	522百万円（2017年8月期）

##### 主な商材

- API、医薬品中間体、農薬中間体、エンブラ関連の中間体
- 染料、顔料ベースの機能性色材各種、及びその中間体等特殊化学品化合物

##### 目的

- 当社化学品事業部の既存医薬品ビジネスの補完
- Vision2020注力ポイント以外の医薬中間体PJ 強化・推進策
- インドを初めとする海外での豊富な製薬ネットワーク獲得

##### 主なターゲット市場

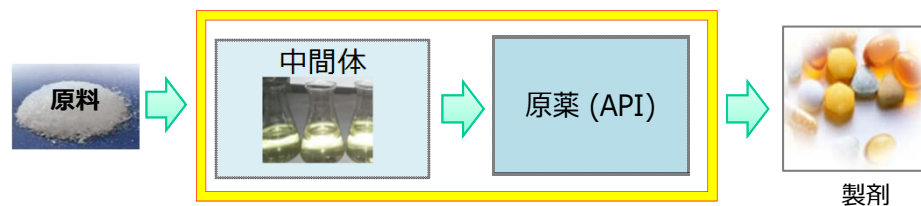
- 本邦のジェネリック原薬（API）における輸入API市場  
⇒ 従前主力であった中国製品に変わりうる製造地として、インド品、東欧品を代替主力品として取りそろえる

##### < API とは？ >

薬の中の有効成分 = 原薬



##### < 医薬品製造過程・取引の流れ >



アズロ社のターゲット

# 長期ビジョン“VISION 2020”の進捗 戦略E 事例 2/2



## ソート社の合併

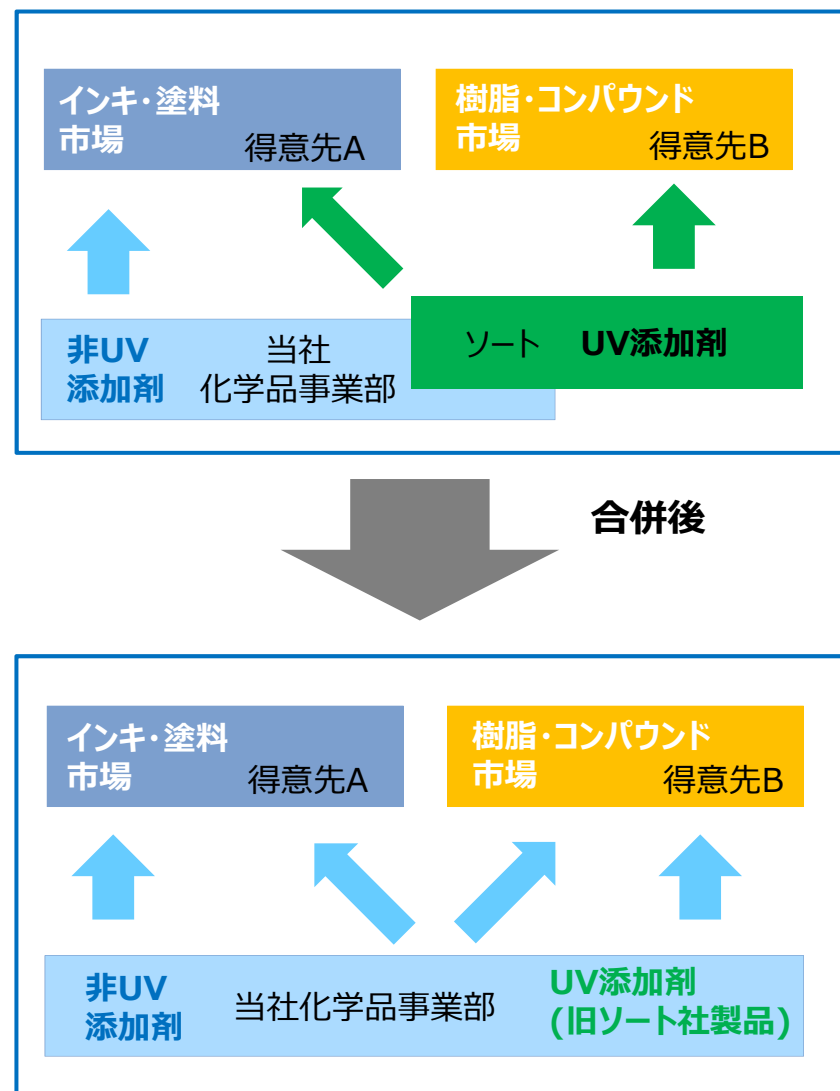
### 概要

合併日	2018年4月1日
主力商材	インキ、コーティング、電子材料向けの光重合開始剤及び紫外線吸収剤、光安定剤、酸化防止剤、ウレタン硬化剤、エポキシ硬化剤等

### 合併の狙い・目的

- ◆**当社化学品事業部との綿密な組織統合によるシナジー発現**
  - 化学品事業でグローバル展開できる柱となる商権の一層の強化、顧客情報の一元管理
  - 合併に伴う組織強化・人員融合により、従来重複していた顧客営業網の再編を図り、情報共有による営業活動効率化
  - 顧客ニーズ対応の迅速化・シーズ把握の迅速化
  - 物流（管理）の合理化・在庫の適正化（流通在庫）
- ◆**海外拠点との連携強化によるグローバル展開への深化**
  - 当社の海外ネットワークに乗せ、現地商流に入り、在庫販売も行うことで、旧ソート社商材の事業展開地域を本邦以外へ拡張
  - 特にASEAN地区への拡販

### ＜ソートとの合併前後の変化イメージ＞



# Memo

---



# 第三部

## 2018年9月期 連結業績予想

---



# 2018年9月期 連結業績予想



- 事業環境が好調かつ特殊要因の増益がありながらも、販管費増加も見込まれ、2Q業績好調ながら、通期では期首予想通りと見込む
- 引き続き、基盤作りの年度として、人的投資・組織強化を継続する

(単位：百万円)

	実績			予想		
	2017年9月期			2018年9月期		
	金額	構成比 (%)	前期比増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比増減率 (%)
売上高	67,738	100.0	13.1	74,300	100.0	9.7
売上総利益	12,264	18.1	22.4	13,100	17.6	6.8
販売費及び一般管理費	7,325	10.8	22.8	8,150	11.0	11.3
営業利益	4,938	7.3	21.9	4,950	6.7	0.2
経常利益	5,270	7.8	23.3	5,150	6.9	△2.3
親会社株主に帰属する当期純利益	3,351	5.0	21.5	3,310	4.5	△1.2
E P S (円)	234.20	-	-	231.25	-	-

# 2018年9月期 セグメント別 売上予想



- 化成品は、前期に発生した原材料市況の大幅変動による一過性要因は剥落も、前期並みの見込み
- 機械資材は、自動車内装部品の好調な需要に加え、木質バイオマス大型案件も寄与し、大幅伸長の見込み
- 海外現地法人も、各拠点での自動車関連・ゴム関連ビジネス伸長により、下期も大幅増収基調の見込み
- 国内子会社は、機器輸出大口案件あるも、資源関連は厳しい事業環境もあり低調に推移する見込み

(単位：百万円)

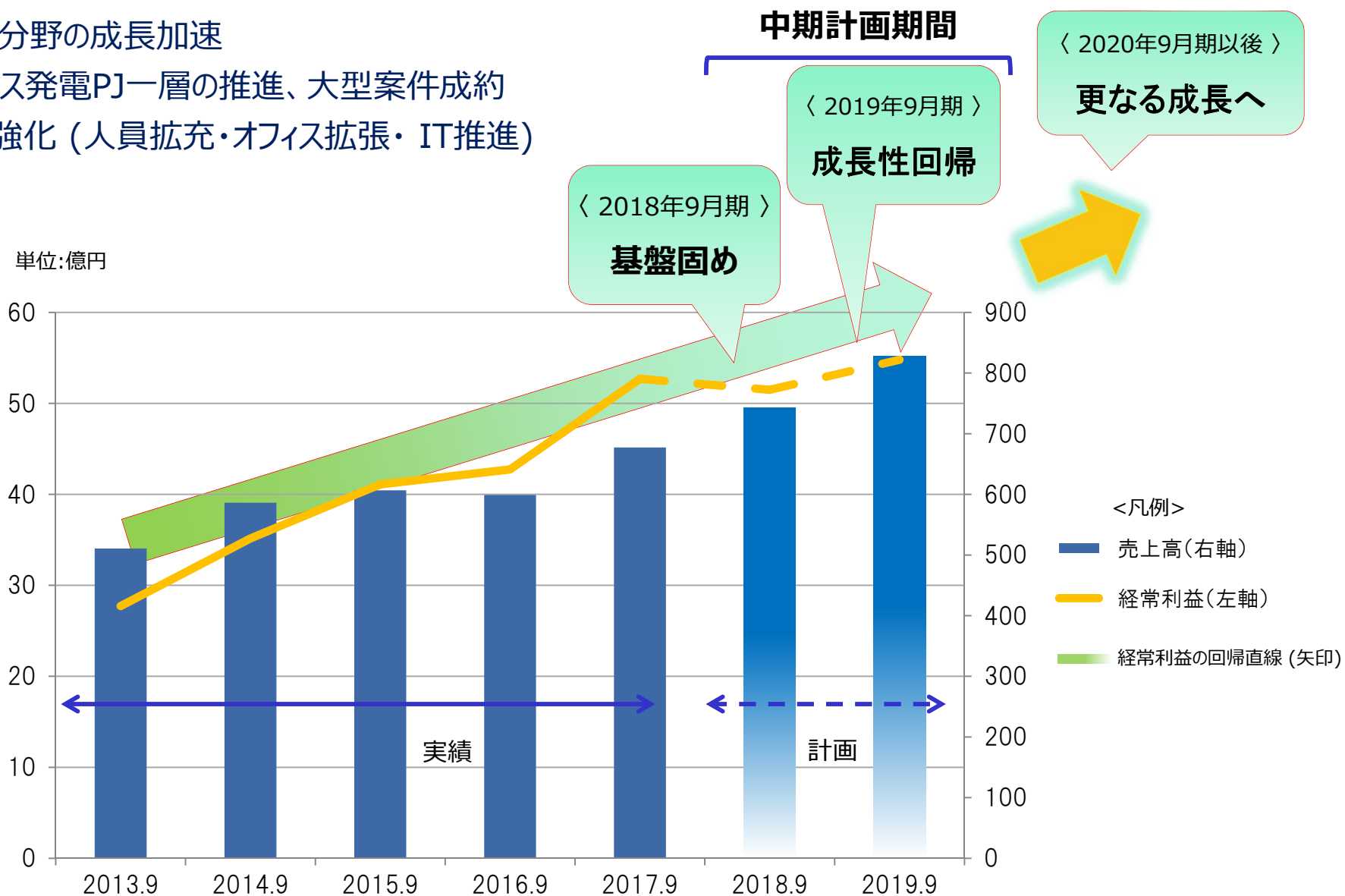
	実績			予想		
	2017年9月期			2018年9月期		
	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)
化成品	26,703	39.4	9.1	26,800	36.1	0.4
機械資材	21,613	31.9	13.1	24,800	33.4	14.8
海外現地法人	15,093	22.3	40.4	18,800	25.3	24.6
国内子会社	4,093	6.0	△22.7	3,700	5.0	△9.6
その他	222	0.3	△4.3	200	0.3	△10.0
合計(調整後)	67,738	100.0	13.1	74,300	100.0	9.7

# 実績値推移と今後の方向性



## <今後の成長要因>

- 自動車関連分野の成長加速
- 木質バイオマス発電PJ一層の推進、大型案件成約
- 組織体制の強化 (人員拡充・オフィス拡張・IT推進)



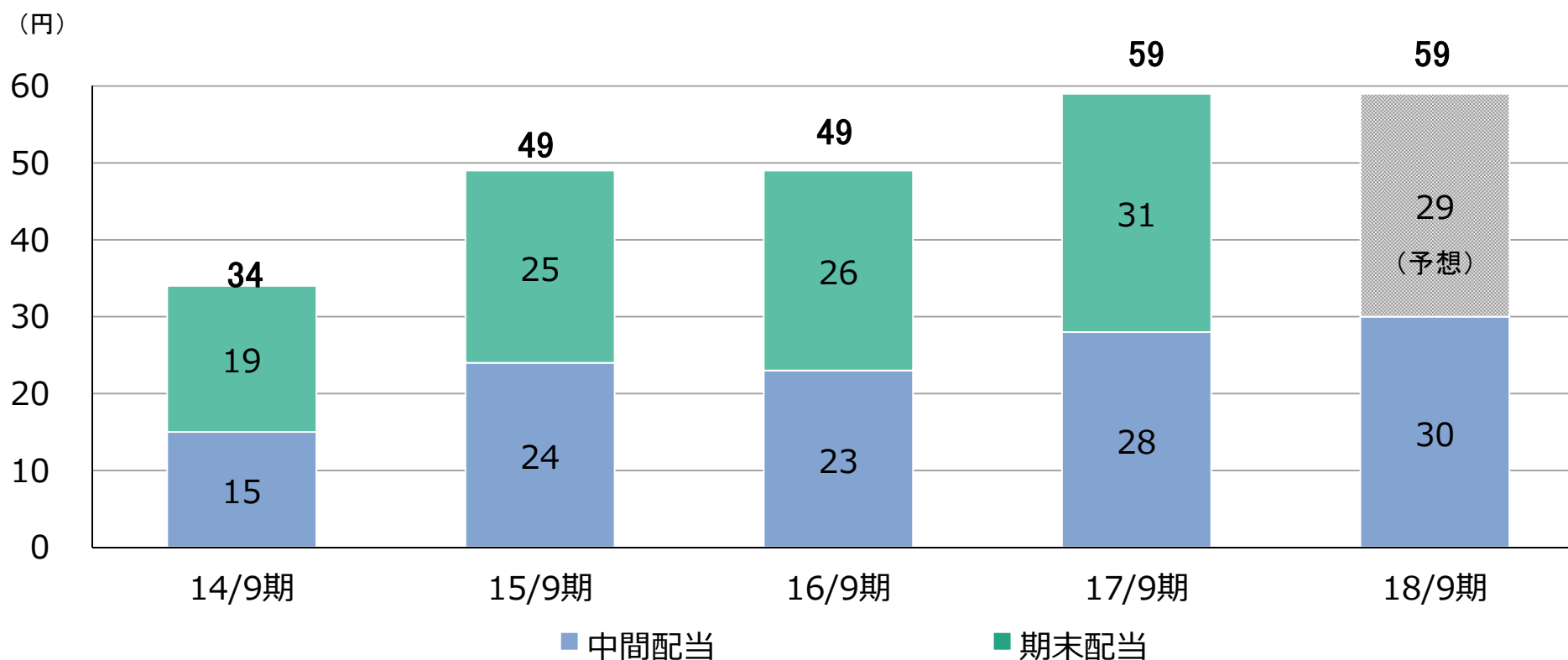


# 株主還元



- 「利益配分に関する基本方針」に基づき、2018年9月期は、期初予想通りの59円を予定

	1株あたり配当金		
	2Q末	4Q末予想	合計予想
2018年9月期	30円	29円	59円



# APPENDIX 1

## 中期経営計画 (2018/9~2019/9 2017年11月公表)

---





## < 課題 >

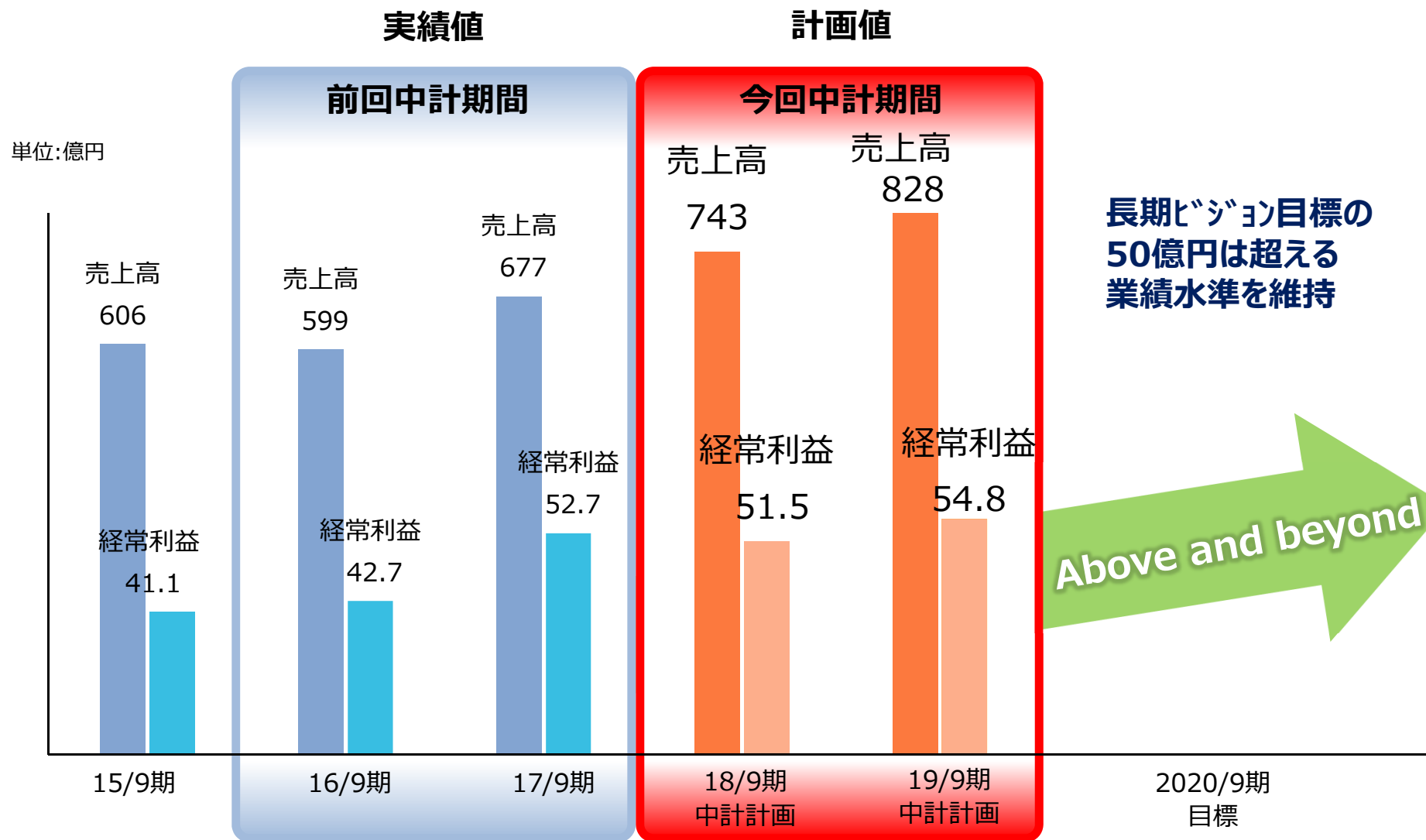
- 定性目標や組織体制のさらなる強化
  - ・コアビジネスの深化推進
  - ・新規ビジネスの立ち上げのスピードアップ
    - ☑ 特殊フィルムの海外展開体制強化
    - ☑ 地熱/海洋資源開発関連機材の推進
  - ・海外展開での拠点間連携、また管理及び組織体制強化
  - ・新規投資は引き続き長期VISIONの方針に基づき、積極的に展開



## < 中計の方向性 >

- 長期VISIONの定性目標を据え置き、戦略の根幹として継続
- 前回の重点戦略骨子を維持しつつ、以下を踏まえた方向性
  - ・2018年9月期は、さらなる成長への力を蓄える基礎固めの年と位置付け、組織整備・投資に注力
  - ・2019年9月期以後は、基礎固めによる成果を享受し、将来のさらなる成長に繋げる
- 外部環境変化に対しては柔軟な対応
  - ・アセアン地区他新興国市場の伸長に合わせて、当社海外拠点の組織・体制をさらに強化する
  - ・新規投資は、相乗効果・成長性・グローバル展開の観点を軸に、引き続き積極的に展開する

# 長期ビジョン（VISION2020）と中期経営計画

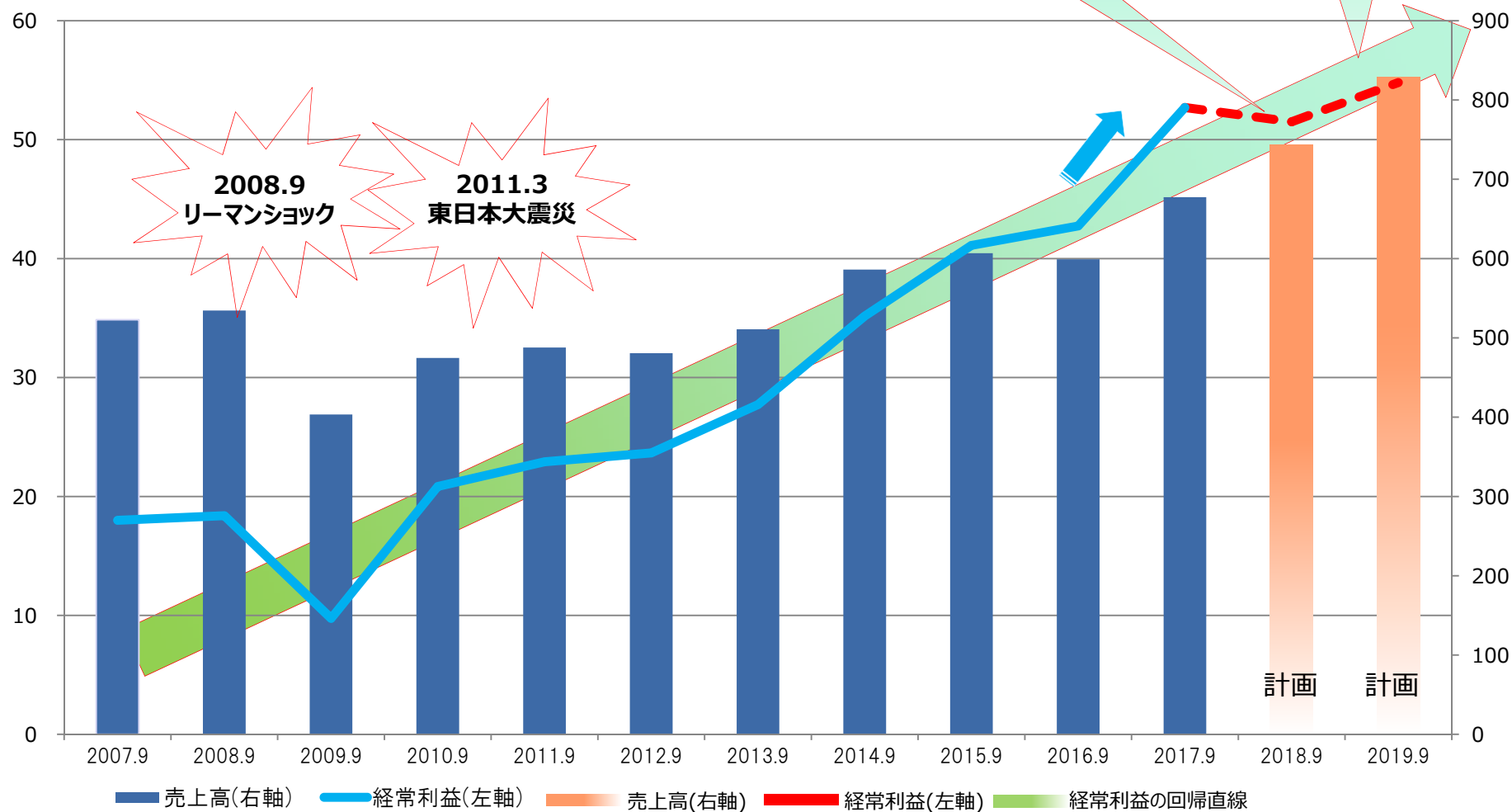


# 実績値推移と新中期経営計画



- 2017年9月期；伸長率急増
- 2018年9月期；意識的な基礎固めの年
- 2019年9月期；成長基調へ回帰

単位:億円



〈 2018年9月期 〉  
**基盤固め**

〈 2019年9月期 〉  
**成長性回帰**

2008.9 リーマンショック

2011.3 東日本大震災

# APPENDIX 2

## 会社説明資料

---





# 1. 会社概要

会社名	三洋貿易株式会社
英文社名	SANYO TRADING CO., LTD.
設立	1947年5月
代表取締役社長	増本 正明
本社所在地	東京都千代田区神田錦町2丁目11番地
事業内容	ゴム、化学品、機械機器、科学機器、自動車部品その他各種商品の輸出入、国内販売を行う市場ニーズの高い商品を取り扱い、技術的サポートを得意とする
拠点	東京、大阪、名古屋、広島、ニューヨーク、デトロイト、上海、天津、広州、バンコク、ホーチミン、ハノイ、グルガオン(インド)、香港、イラプアト(メキシコ)、ジャカルタ、シンガポール、デュッセルドルフ
売上高	67,738百万円 (2017年9月期、連結ベース)
経常利益	5,270百万円 (2017年9月期、連結ベース)
親株主帰属当期純利益	3,351百万円 (2017年9月期、連結ベース)
従業員数	326人 (2017年9月末、連結ベース)

## 2. 沿革



1947年 5月	旧三井物産の解体に伴い、同社神戸支店有志により神戸を本店として資本金195千円をもって三洋貿易株式会社を設立	2012年 2月	三洋物産貿易（香港）有限公司を設立
1948年 5月	東京支店を設置	10月	東京証券取引所 市場第2部に上場
1952年 12月	大阪支店を設置	2013年 10月	メキシコにSun Phoenix Mexico S.A. de C.Vを設立
1954年 1月	ニューヨーク駐在員事務所を開設(1961年2月Sanyo Corporation of Americaに改組)	10月	東京証券取引所 市場第1部指定
1958年 8月	名古屋支店を設置	2014年 8月	インドネシアにPT. Sanyo Trading Indonesiaを設立
1961年 11月	本店を神戸から東京に移転	2015年 6月	Bestrade Precision Singapore社を子会社化。7月に社名変更「Singapore Sanyo Trading Pte. Ltd.」へ
1988年 6月	バンコク駐在員事務所を開設	9月	株式会社ケムインターがコムスタージャパン株式会社を子会社化
1990年 9月	ハノイ駐在員事務所を開設	10月	タイにSanyo Trading (Thailand) Co., Ltd. を設立
1992年 10月	ホーチミン駐在員事務所を開設(2010年2月Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd.に改組)	2016年 2月	株式会社ソートを子会社化(2018年4月合併)
2002年 8月	上海駐在員事務所を開設	7月	日本ルフト株式会社を子会社化
10月	ニューリー・インスツルメンツ株式会社を吸収合併	2017年 2月	古江サイエンス株式会社を孫会社化(2017年9月三洋テクノス株式会社と合併。三洋古江サイエンス株式会社に商号変更)
2003年 6月	バンコク駐在員事務所をSan-Thap International Co.,Ltd.社へ業務移管	3月	ドイツにSanyo Trading Co., Ltd. Dusseldorf Representative Officeを設立
2004年 1月	コスモス商事株式会社を子会社化	6月	日本フリーマン株式会社を子会社化
10月	株式会社東知との共同出資にて、三洋東知（上海）橡胶有限公司を設立	8月	広島事務所を開設
2006年 4月	三洋テクノス株式会社を設立	10月	アズロ株式会社を子会社化
10月	株式会社ケムインターに資本参加し、発行済株式の68.52%を取得(現在76.85%)	2018年 2月	San-Thap International Co., Ltd.を子会社化
2010年 10月	インド駐在員事務所（ニューデリー）開設(2011年12月Sanyo Trading India Private Ltd.に改組)		



# 3. 事業拠点



化成品セグメント	
ゴム事業部	化学品事業部
三洋東知（上海） 橡胶 三洋物産貿易（香港）	アズロ（株）

機械資材セグメント		
機械・環境事業部	産業資材事業部	科学機器事業部
三洋機械工業（株）	日本フリーマン（株）	三洋古江サイエンス（株） 日本ルフト（株）

国内子会社セグメント	
コスモス商事(株)	(株)ケムインター

## 駐在員事務所

### 欧州



## 海外現地法人セグメント

### 北米 中南米



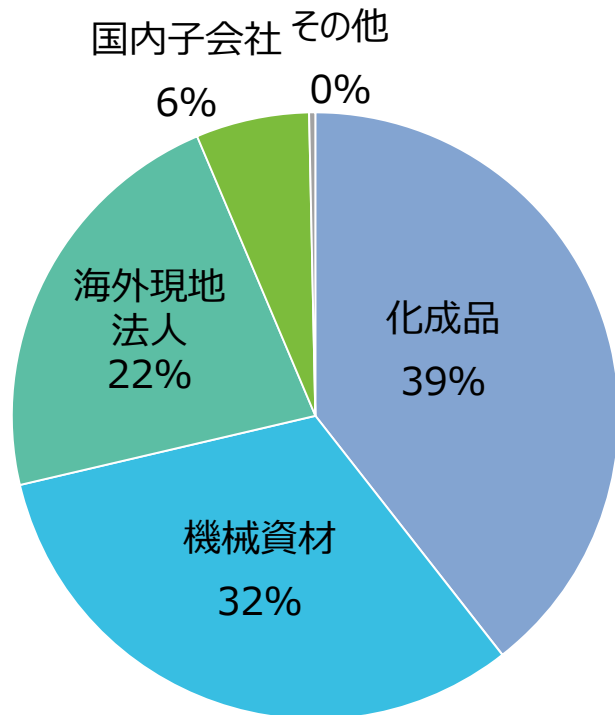
### アジア アセアン



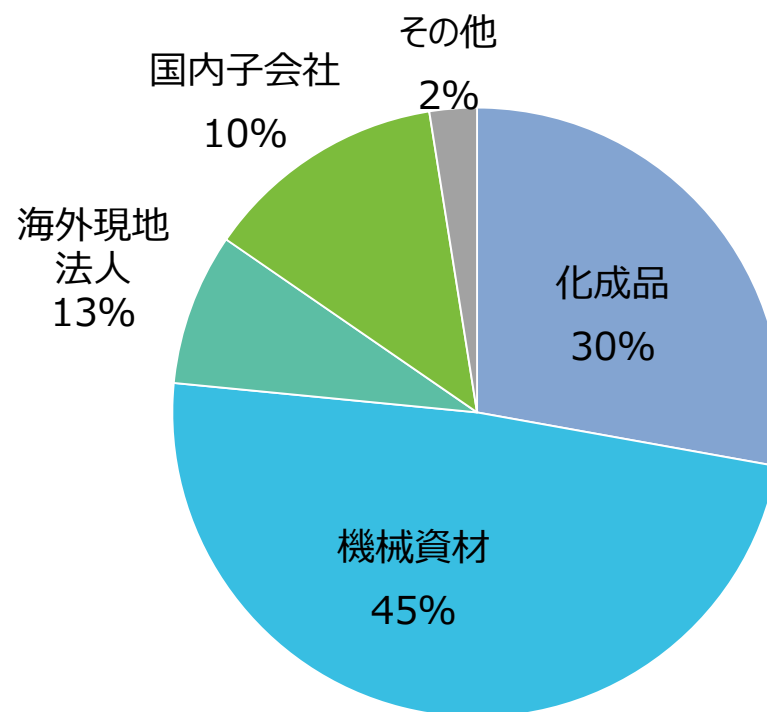
# 4. 事業ポートフォリオ



## 売上高



## 営業利益



セグメント別売上実績				
2017年9月期				
百万円				
化成品	機械資材	海外現地法人	国内子会社	その他
26,703	21,613	15,093	4,093	222

セグメント別営業利益実績				
2017年9月期				
百万円				
化成品	機械資材	海外現地法人	国内子会社	その他
1,642	2,524	727	540	128

(注) 調整前

# 5. 各事業の強みと特徴① 化成品セグメント1/2

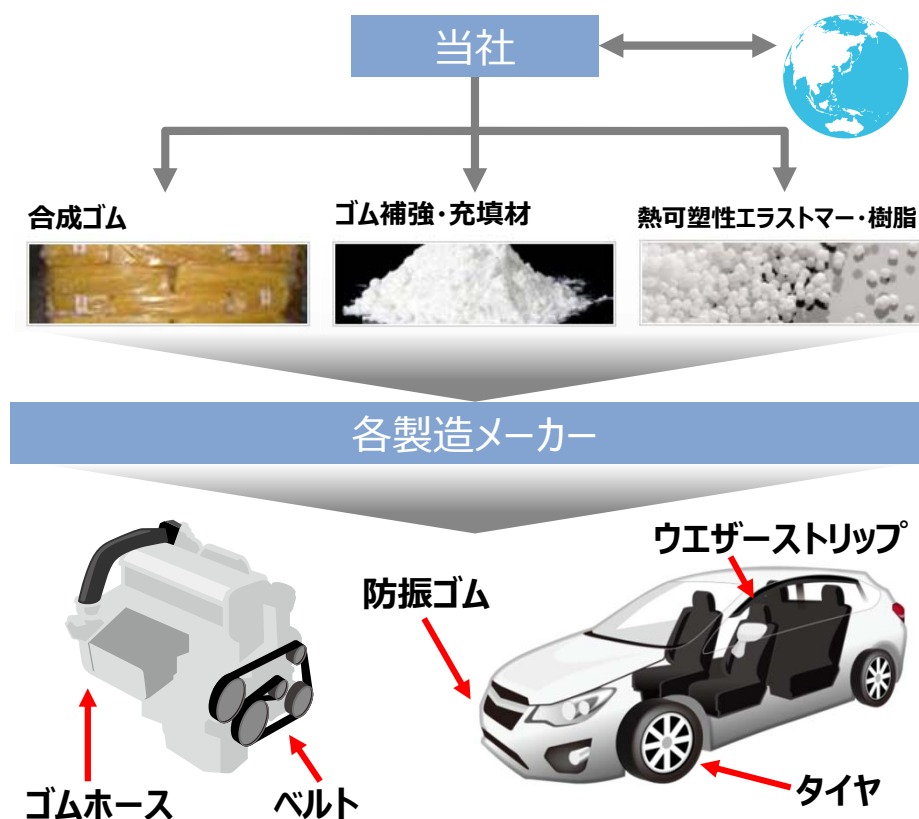


ゴム事業部	
主要取扱商材	合成ゴム（ブチルゴム、NBR、シリコンゴム等）、 ゴム補強・充填材（特殊クレー、難燃剤等）、 可塑剤、熱可塑性エラストマー・樹脂等
主要販売先業界	自動車、情報機器等
主要用途	タイヤ、自動車部品（内外装部品、防振ゴム、 ホース、オイルシール等）、OA部品（各種 ロール等）、医療関連商品等
注力分野	海外連携

## 特徴・強み

- 1952年 日本で最初に合成ゴムを輸入。ゴム産業に係る幅広い商品を取扱う
- 取引先は国内タイヤ、工業用ゴム製品の主要メーカーをほぼ網羅
- 合成ゴム、充填剤等の一般原材料のみならず、特殊ポリマー、配合剤等、多彩な商品を取扱う
- 技術系営業員によるユーザーへの技術支援、共同開発も可能
- 安定供給を維持するためのロジスティクス分野でも実績と経験を保有
- 顧客の海外進出にも対応可能なネットワークを構築

## 取扱い商材例とその最終製品例



主な仕入先	主な取扱商品	特徴
ARLANXEO/Lanxess	各種合成ゴム、可塑剤	世界No.1の合成ゴム総合メーカー、幅広い製品群を安定供給
KaMin	特殊クレー	タイヤ、工業用ゴム部品で性能向上と低コスト化を両立させる戦略商品
東レ・ダウコーニング	シリコンゴム	耐熱性に優れ、OAロール・自動車部品・医療用部品等幅広い用途

## 5. 各事業の強みと特徴② 化成品セグメント2/2

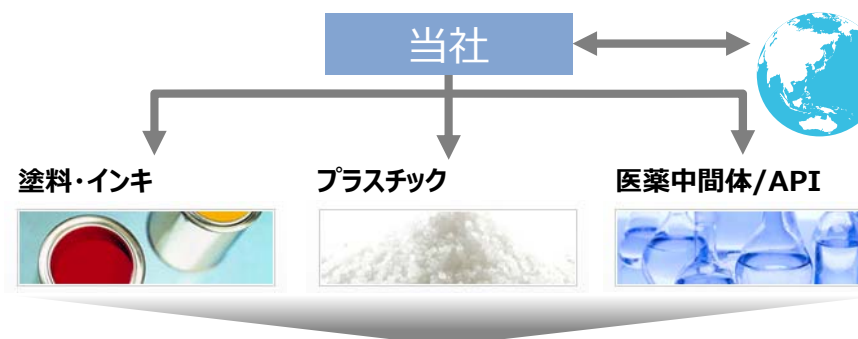


化学品事業部	
主要取扱商材	塗料・インキ用添加剤等、各種樹脂、高機能性フィルム、医薬中間体/API、電子材料、接着機器等
主要販売先業界	化学、建材、自動車、電子機器 等
主要用途	塗料、インキ、プラスチック、フィルム、医薬等
注力分野	医薬中間体/API、高機能性フィルム

### 特徴・強み

- 高付加価値のファインケミカルを取り扱う
- 医薬中間体/API、太陽電池関連、環境対応型商品など、医薬、エネルギー、環境向けにライフサイエンス商品も展開
- 優れたロジスティックノウハウでの物流サービス、在庫販売及びきめ細やかな技術サービスを提供
- 海外仕入先にてトレーニングを受けた営業員による高付加価値商品の提案、用途開発ならびに技術支援

### 取扱い商材例とその最終製品例



### 各製造メーカー



主な仕入先	主な取扱商品	特徴
Shamrock	各種ワックス	インキ・塗料用の高性能ワックス
東洋紡	各種フィルム	ナイロン、PET他高機能フィルムの幅広い品揃え



## 5. 各事業の強みと特徴③ 機械資材セグメント1/3

機械・環境事業部	
主要取扱商材	ペレットミルおよび関連部品、木質バイオマス関連機器
主要販売先業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ペレットミル</b> 飼料、エネルギー、リサイクル</li> <li>● <b>木質バイオマス関連機器</b> 地方公共団体等</li> </ul>
主要用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ペレットミル</b> 飼料製造、固形燃料（ペレット）製造</li> <li>● <b>木質バイオマス関連機器</b> 電力、熱供給</li> </ul>
注力分野	木質ペレットガス化熱電併給装置（取扱開始）

### 取扱い商材例



CPM社 ペレットミル

### 特徴・強み

#### CPM社製ペレットミル

- 日本総代理店として60年以上の歴史
- 飼料用ペレットミルのシェアは8割以上
- メンテナンス部隊による保守点検
- ペレットミル自動制御装置のソフト開発およびカスタマイズ化で他社の輸入品と差別化

#### 木質バイオマス関連機器

- 独ブルクハルト社製。木質ペレットとのシナジー効果を期待
- 再生エネルギー利用、地域振興の政策意義



ブルクハルト社 熱電併給ユニット



ブルクハルト社 ガス化ユニット

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
CPM	ペレットミル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飼料、餌料においては固形化により自動給餌が可能</li> <li>● 保管と輸送費の節減が可能</li> </ul>
ブルクハルト	木質ペレットガス化熱電併給装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能エネルギーとして、熱電併給が可能</li> </ul>



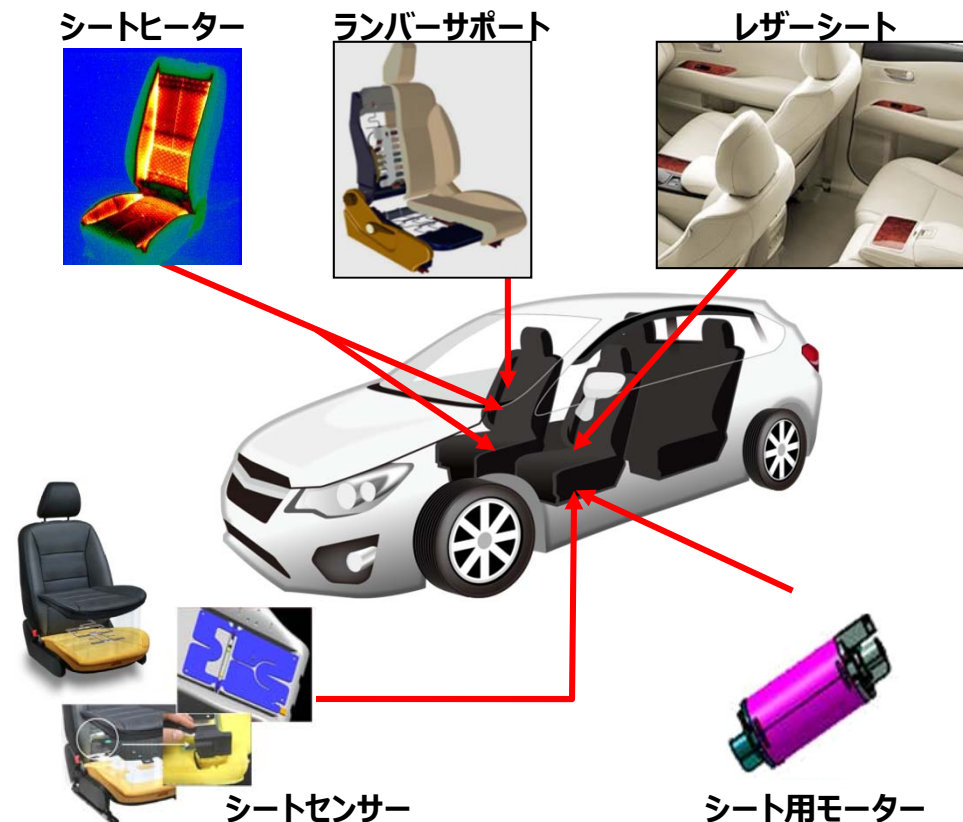
## 5. 各事業の強みと特徴④ 機械資材セグメント2/3

産業資材事業部	
主要取扱商材	自動車シート用本革、シートヒーター、ランバーサポート等
主要販売先業界	自動車関連
主要用途	自動車用内装部品（主として高級車）
注力分野	エアバッグ用センシングデバイス、空調シート（温・冷風）

### 特徴・強み

- 新車の開発段階からデザインの提案や性能開発・改良に参加
- 受注→開発→立ち上げ→量産管理→旧型補給品対応 まで一貫して対応する体制
- 自動車メーカー及びTier1との深い関係構築
- 皮革シートの厳しい納入基準をクリア
- 契約獲得できればその生産期間は売上が見通しやすい

### 取扱い商材例



主な仕入先	主な取扱商品	特徴
GST/Seton Autoleather	自動車用の本革	デザインから自動車メーカーと共同開発
Gentherm	シートヒーター	カーボンファイバー仕様の市場を独占
L&P Group	ランバーサポート	高い技術力で世界市場で大きなシェアをもつ



## 5. 各事業の強みと特徴⑤ 機械資材セグメント3/3

科学機器事業部	
主要取扱商材	各種検査・試験機器（摩擦試験機、金属分析器、ガス分析計、耐候性試験機、バイオセンサー、表面物性試験機等）・医療機器
主要販売先業界	国立研究所、防衛省、大学、石油、化学、自動車、製薬等
主要用途	研究開発、品質管理、判別、危機管理
注力分野	バイオリアクター、医療機器

### 取扱い商材例



バイオリアクター



ガス分析装置



耐候性試験機



摩耗粉分析装置

### 特徴・強み

- 特定の分野ではなく、公官庁、民間企業とも幅広い分野に顧客を有する
- 海外の先端技術を有する多くのメーカーの優れた商品を国内に輸入、販売を行う
- 保守サービス専門子会社を保有している
- 自社ブランド商品の開発と輸入機器のカスタマイズを得意とする

主な仕入先	主な取扱商品	主な仕入先	主な取扱商品
FALEX	摩擦試験機	Q-LAB	耐候性試験機
SPECTRO INC.	潤滑油劣化診断機器	PICARRO	温室効果ガス・同位体比分析計
PRESENS	非破壊酸素濃度計	ASI	二次イオン質量分析計





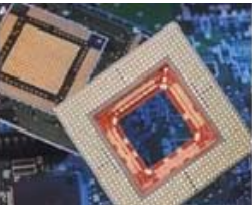




# 5. 各事業の強みと特徴⑥ 海外現地法人、国内子会社

## 海外現地法人

北米地域	Sanyo Corporation of America (米国)	化学品、ゴム原料、自動車関連 などの取扱い
アジア地域	三洋物産貿易 (上海) 有限公司 (中国)	自動車関連、化学品、ゴム原料 などの取扱い
	San-Thap International Co., Ltd. (タイ)	
	Sanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd. (ベトナム)	

## 国内子会社

コスモス商事	石油ガス、海洋、地熱、温泉などの資源開発機材の取扱い	  	注力分野
			海底鉱物資源探査 メタンハイドレート 地震の震源域調査 地熱
ケムインター	精密化学品、医薬中間体 などの取扱い	   	注力分野
			液晶・電子材料 精密化学品



## 6. 技術サポートと子会社



### 三洋貿易株式会社（親会社）

- メーカー並の技術的サポートが可能
- 技術系商社として開発段階から参加
- 営業員の約半数が技術系

### 1973年 三洋機械工業株式会社設立（機械環境事業部）

- 機械・環境事業部が販売したペレットミルのアフターサービス、付帯機器の設計・製造、消耗部品の保管
- 伊勢原新工場で木質バイオマス用テストプラントを設置



### 2004年 三洋東知（上海）橡膠有限公司（ゴム事業部、非連結）

- 中国における日系企業向けゴムコンパウンド事業の拠点、80%出資
- ゴムコンパウンドの製造・販売
- 主な用途：自動車、家電、情報機器、建築用ゴム部品



### 2006年 三洋古江サイエンス株式会社（科学機器事業部、非連結）

- 分析機器・試験機の開発、設計、設置据付、試運転、トレーニングなど
- 三洋テクノス（株）として設立後、2017年9月に古江サイエンス(株)を吸収合併し、現商号に変更



### 2016年 日本ルフト株式会社（科学機器事業部）

- 在宅医療機器分野への新規進出

### 2017年 日本フリーマン株式会社（産業資材事業部）

- 精密鋳造分野への新規進出

### 2017年 アズロ株式会社（化学品事業部、非連結）

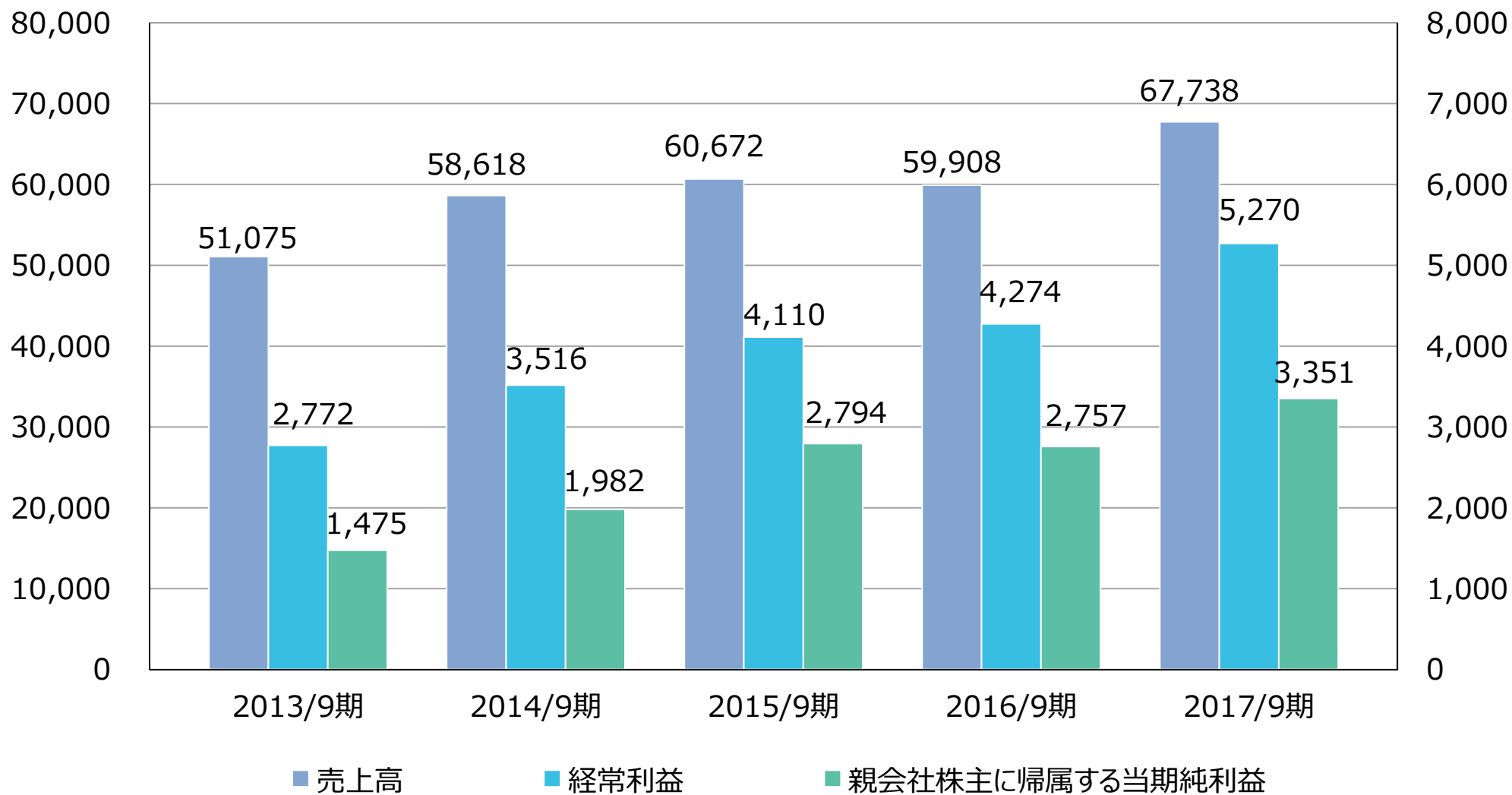
- 医薬品、化学品等の輸入販売

# 7. 売上・利益推移



(売上高：百万円)

(経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益：百万円)

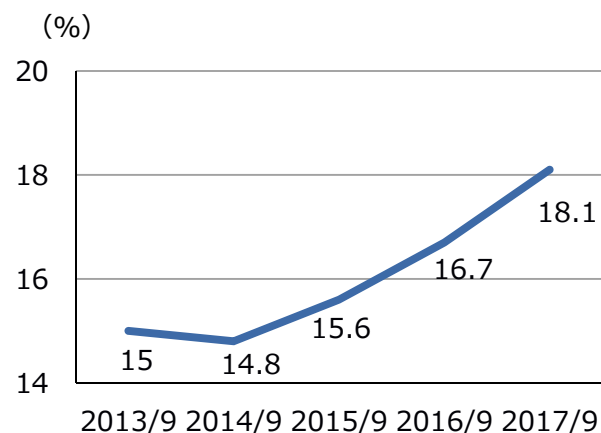


# 財務比率の推移

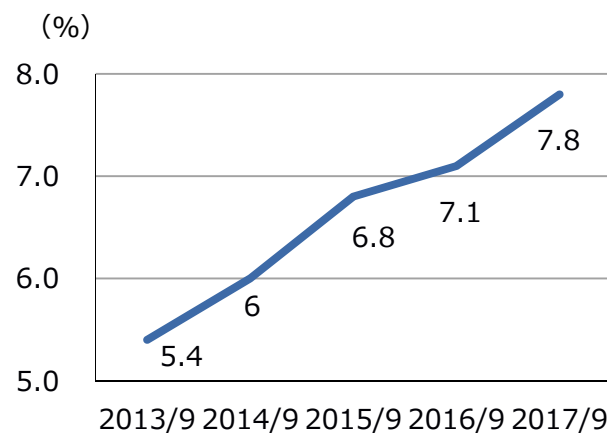


- 売上に対する利益率、資産および資本に対する利益率とも増加傾向

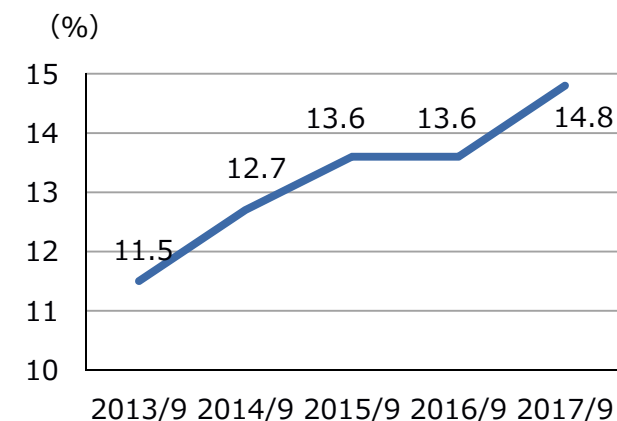
## 売上高総利益率



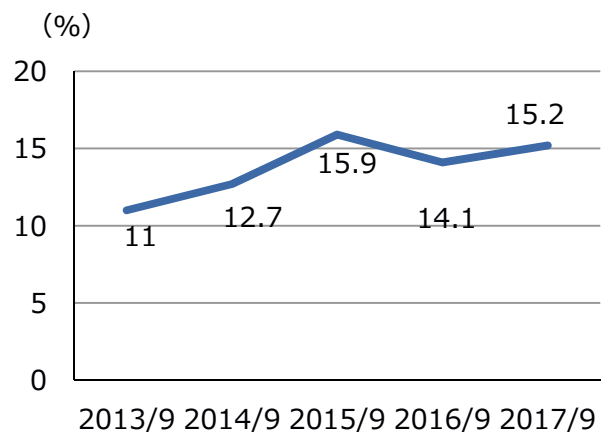
## 売上高経常利益率



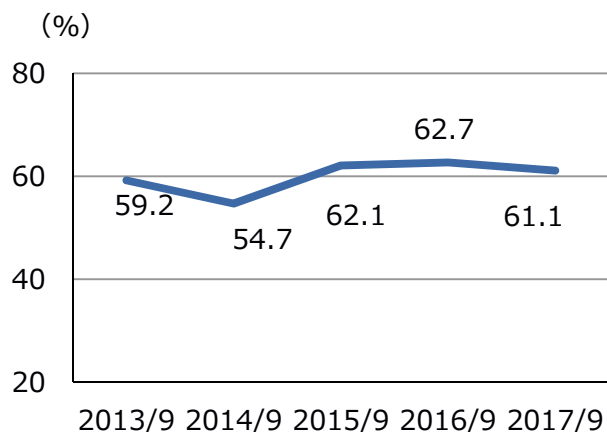
## 総資産経常利益率 (ROA)



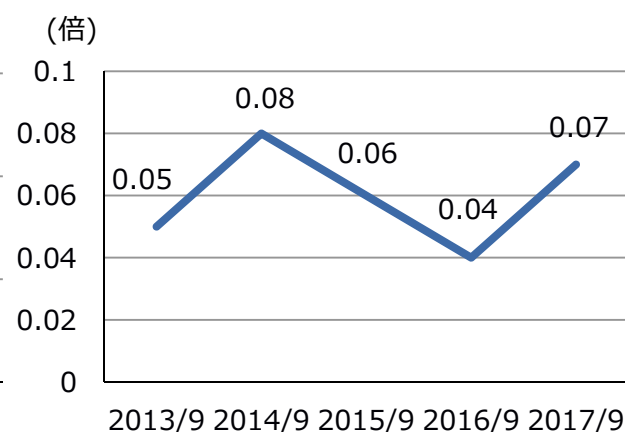
## 自己資本利益率 (ROE)



## 自己資本比率



## D/Eレシオ

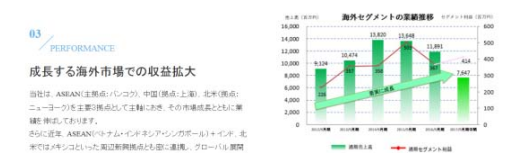
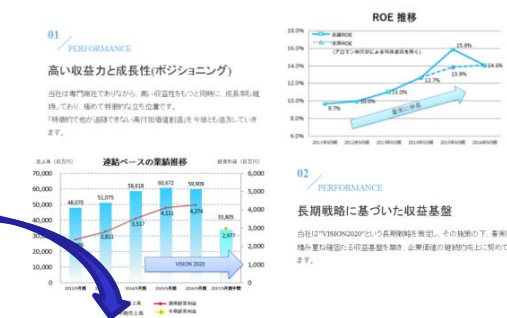
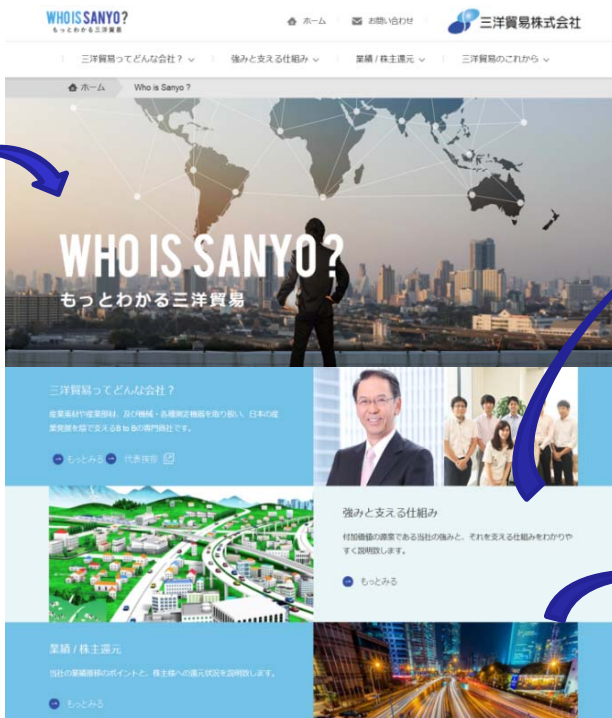


# 弊社会社紹介ページ 開設のご案内

弊社の事業内容や特徴等を、より一層投資家の皆様にご理解いただけるよう、会社内容紹介ページとして「Who is SANYO?」を弊社HPに開設しております。是非ともご覧くださいませようお願い申し上げます。  
 URL : <http://www.sanyo-trading.co.jp/guide/>

< 弊社HP Link >

< 会社内容紹介ページ ; 「Who is SANYO?» >



業績紹介



## IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 取締役兼執行役員 経営戦略室長 新谷 正伸

電話 : 03-3518-1111 e-mail : ir@sanyo-trading.co.jp

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。